

轟 : 2007/03/30(金) 23:46:37

さていよいよ3月も終わり、年度末ですな。

春といえば、別れの季節。
そう、私 本日、乙葉ちゃんとお別れしてきました。

俺の職場にはちびっ子達が遊びに来るんだけど、
乙葉ちゃんはそのうちびっ子達の中でも、俺の最もお気に入りの幼女。
天使みたいに可愛くて、元気いっぱい、人なつこくて、天真爛漫な女の子。
両手でバイバイしながら、ピョンピョンと飛び跳ねる彼女に、どれだけ癒された事が。

そんな乙葉ちゃんも、4月から保育所に通うため、今日がウチに来る最後の日だった。

(最近見掛けないから、今日も来ないのかなぁ...)と心配してたけど、お昼前頃、ママと一緒に登場。
俺の姿を見掛けるや否や、「お兄ちゃん！」と駆け寄ってくる。

俺「乙葉ちゃん、4月から保育所だね^^」

乙「うん^^」

俺「乙葉ちゃんなら、直ぐにいっぱい友達できて、みんなの人気者になれるよ^^」

乙「うん^^」

俺「でもお兄ちゃん寂しいなあ。これからもずっと元気で良い子にしてね。」

乙「うん^^」

イマイチ理解してないんだろうな...

その後は心行くまで、存分に乙葉ちゃんと遊んだ。
いつもと変わらず、乙葉ちゃんは本当に元気いっぱいに遊び回っていた。

(1年近く見守ってきたけど、もうこの子の成長を見る事はできないんだなあ)
そう思うと、胸が締め付けられた。

あっという間に時間が過ぎ、いよいよ乙葉ちゃんが帰る時がやってきた。

俺「乙葉ちゃん、ホントに元気でね！ これからも君の幸せを祈ってるよ！（半泣き）」

乙「うん^^」

俺「乙葉ちゃん、最後にお兄ちゃんのホッペにチューしてくれる？」

乙「いや^^」

乙葉ちゃんはそのまま建物を飛び出すと、いつもみたいにバイバイしながら、その場でピョンピョンと跳ねた。
俺が見る、乙葉ちゃんのラストダンスだ。

この天使は、これからどんな人と出会い、どんな物を食べ、どうやって成長していくのだろうか？
俺と仲良く遊んだ時間は、彼女の人生に於いて、1 / 1000の時間にも満たないんだろうな。
きっと保育所に通い始め、1ヶ月もしたら、俺の事など記憶から消え去ってしまうのだろう。
それでも俺は忘れない。君という天使と過ごした1年間を、俺は決して忘れはしない。

ホントに泣いてしまいそうで、3分ほどその場に突っ立ってた。
ふと我に返ると、俺は職場を飛び出し、遙か向こうの乙葉ちゃんに叫んだ。

俺「乙葉ちゃん、バイバイ！ 元気でね！！」

乙葉ちゃんは振り返ると、もう一度ピョンピョン跳ねながらバイバイしてくれた。
春空の下、色付き始めた桜並木を、乙葉ちゃんとママは手を繋ぎ、ゆっくりと歩いていく。
俺は乙葉ちゃんとママの背中に手を振った。やがて姿が見えなくなるまで、延々と手を振り続けた。

~ fin ~

蟲 : 2007/02/27(火) 01:09:09

聞いてくれおまいら。大ニュースだ。
今日、一週間ぶりに・・・

乙葉ちゃんに会いました！！（嬉）
やっべえよ、やっぱ乙葉ちゃん最高！！マジ可愛すぎる！！
今日は今までで一番いっぱい遊んだ。
どさくさに紛れて、抱き締めたり、おしり触った！！
ホント可愛いんだよぉ～。
人なつこくて、素直で、明るくて、元気いっぱい、
でも恥ずかしがり屋だから、ママの後ろに隠れたり。
顔も声も可愛くて、パタパタ走り回るんだよ。
あの笑顔で「お兄ちゃん遊ば」なんて言われたら、頭おかしくなっちゃうよ。

乙葉ちゃんがイチゴ大福食ってたから、
「お兄ちゃんにも分けて」って言ったら、
「はい^^」って、皮の切れ端（1ミぐらい）を、ポトって机に落としてくれた。
それを這いつくばって、
「乙葉ちゃんは優しいね！ おいひいっ！！」ってむしゃぶりついたら、
隣でママが引きつった笑顔だったよ。

マジで可愛い。天使のように愛くるしい。
乙葉ちゃん（3歳）に比べれば、貫地谷しほり（21歳）なんて、ただのパバアじゃん！！
もう乙葉ちゃん最っ高おぉおー！！！！
この先乙葉ちゃんに訪れるあらゆる災厄から守ってあげたい。

てか乙葉ちゃんのパパになりたい。俺の娘として一生育てたい。
乙葉、かわいいよ乙葉……。

蟲 : 2007/08/07(火) 12:48:56

既に一昨日の話だが、(株)野田 ニーの夏祭りイベントに行ってきました。
早苗ゴリに誘われて、まあ最初行く気は全く無かったんだが、
裏情報によると、野田 ニーの若社長が後藤田良純先生と懇意にされてるらしく、
女優の水野真紀さんが、当日やってくるかも……との噂を耳にしたのだ。

そんな餌に俺様が釣られ……クマー……!? ……と釣られて、やむなく参加(照)

そして俺は会場で、運命の再会を果たす事になる。

それはショボいマジックショーを見てた時のこと。

左前方に、なにやら見覚えのある幼女が……
いや正確に言うと、全然知らない子の筈なんだけど、
目が……あのトロンとした特徴的な目だけが、
『乙葉ちゃん』に似てるような気がするのだ。

そして今俺の左前方に座ってる幼女が……その乙葉ちゃんにクリソツなのだ！
日焼けして真っ黒だし、ふっくらとしていた筈のホッペは痩せているし、
髪型も全然違うし、アゴもシュツとなってるけれど……
でもあの目だけは忘れはしない！ あのトロンとした、Aちゃん(元カ)の様な目を！！

恐る恐る早苗さんに聞いてみる。

俺「あの……全然違うかもしれないんだけど、あの女の子……『乙葉ちゃん』じゃない？」

早「ええ？ 違うやろ？ 全然別人やん。」

俺「いや、確かにだいが変わってるけど、あの目はやっぱ……乙葉ちゃんでしょ!？」

早「んな事ないって。別人別人。」

俺「うーん、そうかなあ……。」

しかし次の瞬間、幼女の隣に座ってたママが振り向いた。

アッー！ あれは……乙葉ちゃんのママ！！
と……いう事は……お……お……

俺「乙葉ちゅわああああああんっっ！！！！」

本能を抑えきれず、乙葉ちゃんに駆け寄る俺。

すると乙葉ちゃんは、「お兄ちゃん」と俺の手を握り、ぴょんぴょんと跳ねる・・・筈だった。
が、しかし・・・現実は残酷なものだった。

乙葉ちゃんは、まるで不審者でも見るかのような目で俺を一別すると、サッとママの後ろに隠れてしまったのだ。

俺「そ、そんなんっ・・・そんな・・・まさ・・・か・・・。」

そう、『時間』という名の魔物が、二人の間を引き裂いてしまったのである。
過去あれほど戯れた俺たちなのに、5ヵ月という月日が、
乙葉ちゃんの脳味噌から、俺に関する一切の記憶を、奪い去ってしまっていたのだ・・・！！

・・・っていうか・・・まあアレだ・・・。

普通に忘れられてた orz

しかし『時間』とは不思議なものだ。
わずか5ヵ月で、乙葉ちゃんは「幼女」から「少女」になっていた。
前見た時は、肉塊みたいにブニョブニョだったくせに、
すっかり女の子らしくなっちまいがったっ・・・！
乙葉ちゃんの頭から俺の記憶を奪ったのも『時間』。
そして乙葉ちゃんを保育所に通うお姉ちゃんに成長させたのも『時間』。
やれやれ、俺も歳を取るわけだ。
それにしても・・・乙葉ちゃんは何てキレイになったのだろう・・・(ドキドキ)

俺「き、綺麗になったね・・・乙葉ちゃん・・・(照)」

乙葉ちゃんは相変わらずママの後ろに隠れて、こちらをジッと睨んでいる。

しかしもはや闘争本能の固まりになった俺に、そんな攻撃が通じる筈もなかった。

俺はすかさずママの後ろに回り込むと、

「可愛いよ！可愛いよ乙葉ちゅわん！！ハアハア！！かつ、可愛いよ！！」

と、おもっくそ抱き付いた。

「ほぎゃああああああ！！！！(涙)」

という乙葉ちゃんの泣き声が、会場に響き渡ったのは言うまでもない。

その後ゴリやら乙葉ちゃん親子やらと祭りを楽しみ、最高の一日を満喫した。
そういや水野真紀が来てたような気もするけど、その頃にはもはや興味も失せていた。

神サンよ、ありがとう。

もう未来永劫会えないと思っていた乙葉ちゃんと、あんな所でバツタリ巡り合わせてくれた。

最近ツキに見放されっぱなしだけど、この一件で全てがチャラだ。

乙葉ちゃん・・・次に再会するのはいつだろう？

1ヵ月後？ 1年後？ それとも10年後？

俺は次に会った時の乙葉ちゃんの姿を想像するだけで、何とも幸せな気持ちになれるのだ。

~ f i n ~
